

Round 5



Outline

終盤に追いつけた坪井翔は5位に入賞し、ランキング3番手につける。笹原右京はスタートの出遅れが響き、16位でレースを終える。

2024年の全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round5「もてぎ 2&4 レース」が8月24日(土)・25日(日)にモビリティリゾートもてぎで行われた。8番グリッドからスタートした坪井翔は、スタート直後に他車と接触する場面があるも着実に追いついていき、5位入賞を果たした。笹原右京は16番グリッドから追いつけを目指したが、スタートでの出遅れが響き、16位でレースを終えた。



● Information

circuit モビリティリゾートもてぎ(栃木県茂木町)
 date 8/24 **sat** 8/25 **sun**
 weather 晴れ 晴れ時々曇り
 spectators 18,800人 (sat 8,300人 + sun 10,500人)

Result

36

VANTELIN
TEAM TOM'S

SHO TSUBOI

Driver 坪井 翔

予選	8位	Driver Rank
決勝	5位	3位

予選 Q1	P4 (A Gr) / 1'32.674
予選 Q2	P8 / 1'32.278
決勝	P5 / 1'35.556

37

VANTELIN
TEAM TOM'S

UKYO SASAHARA

Driver 笹原 右京

予選	16位	Driver Rank
決勝	16位	-位

予選 Q1	P8 (B Gr) / 1'33.252
予選 Q2	-
決勝	P16 / 1'35.769

予選

●天候：晴れ ●気温：35℃ ●路面温度：46℃



Qualifying detail

坪井はトップに肉薄し8番手を獲得。笹原は僅差でQ2進出ならず、16番手から追い上げを目指す。

今回の舞台となるモビリティリゾートもてぎは各ストレートを直角コーナーやヘアピンで結ぶレイアウトが大きな特徴となっているコースで、減速力と加速力の性能が重要視される。さらに8月の開催ということで、シーズン中最も過酷なコンディション下でのレースになることで知られている。

7月のRound4富士で今季初優勝を挙げた坪井は、午前中に行われたフリー走行の前半にトップタイムを記録。最終的に9番手タイムで終わったが、調子の良さがうかがえた。午後の公式予選では、Q1Aグループを4番手で通過すると、Q2では前戦と同様に僅差の争いとなり、トップから0.283秒差の8番手につけた。

一方の笹原もフリー走行の序盤では上位につけるタイムを記録するが、最終的に15番手でセッションを終了。予選Q1Bグループでは、あと一步のところまでQ2進出はならず8番手。決勝は16番グリッドから挽回を目指すことになった。

After Qualifying



苦戦したなかでも、収穫があった予選でした。

ドライバー 坪井 翔

前戦から持ち越している中古タイヤでは調子良く走っていましたが、新品タイヤになると伸び悩みました。少しでも改善するべくQ1・Q2ともに微調整をして臨みました。結果は8位でしたが、次につながる収穫はありました。

VANTELIN TEAM TOM'S **36**



最初は良かったですが、その先を詰められませんでした。

レースエンジニア 小枝 正樹

最終的に予選Q2では非常に僅差の結果となりましたが、今回はトップを狙うのは難しい状況であったことも事実です。その原因はデータ等を振り返ると判明したので、もっと早い段階で見つけられればという気持ちもあります。

After Qualifying



良い部分と悪い部分がわかった予選日でした。

ドライバー 笹原 右京

フリー走行から色々なトライをして、その中では方向性が見えたのかなと思いました。予選に向けて施した対策が良かった部分と悪かった部分がありました。改善が必要な部分が明確になっているので、そこが良くなれば明るい兆しが見えてくるかと思います。

VANTELIN TEAM TOM'S **37**



もてぎで重要なブレーキングで強さを出せなかったです。

レースエンジニア 大立 健太

フリー走行の序盤は悪くなかったのですが、そこから細かいところが詰め切れない一日でした。もてぎで重要なブレーキングの部分で強さを見出せなかったのが大きな要因で、それが予選でも響きました。しっかり改善して決勝に臨みたいです。

決勝

●天候：晴れ時々曇り ●気温：33℃ ●路面温度：37℃



Race detail

坪井はスタート直後に接触を受けるも、粘り強く追いつけて5位入賞。笹原は16位でレースを終える。

予選日の夜にはゲリラ雷雨に見舞われたモビリティリゾートもてぎだが、決勝日は朝から晴天となりドライコンディションで決勝レースを迎えた。8番グリッドの坪井はスタート直後の1コーナーでライバルの1台と接触し、順位を2つ落とした。2周目に9番手に浮上すると、前回と同様にレース後半までコース上に留まる作戦で周回を重ねていき、23周目にタイヤ交換を完了。新しいタイヤで猛追し、最終的に5位まで挽回してチェッカーフラッグを受けた。

16番グリッドの笹原はスタートで上手く発進できないトラブルに見舞われ、一時は最下位まで落ちた。それでも諦めずに追いつけていき、レースの折り返しを過ぎた20周目にピットインした。タイヤ交換作業に時間を要し、18番手でコースに復帰するが、引き続き粘り強く周回を重ねていき、終盤に2つ順位を挙げた。最終的に16位完走を果たすも、今回も悔しいレース内容となった。

After Race



タイトル争いを考えると、貴重な5位だったと思います。

ドライバー 坪井 翔

スタートで後ろから接触を受けて「これはダメージがあるかもしれない」というくらいの衝撃でしたが、その後は特に問題はなさそうでした。戦略的に後手に回りましたが、後半スタントは調子を取り戻して追いつけることができました。

VANTELIN TEAM TOM'S **36**



最低限の結果だけは残せたのかなと思います。

レースエンジニア 小枝 正樹

最初に接触もありましたが、スタートの出遅れが痛かったです。あとは先頭集団が早めにピットインすると予想して、後半まで引っ張る作戦をとりましたが、結果的に他車もコース上で粘られたのが誤算でした。他にも策はあったのかなと、悔やまれるところはあります。

After Race



とにかく淡々と追いつけていきました。

ドライバー 笹原 右京

スタートでクラッチがうまく繋がらないトラブルが起きて最後尾まで落ちましたが、淡々と粘って追いつけていくしかない状況でした。ペース的にも苦しいところがあったので、ベースの部分レベルアップさせないといけないと感じています。

VANTELIN TEAM TOM'S **37**



現状を打破するために、解決策を見つけないといけません。

レースエンジニア 大立 健太

スタートはトラブルで上手く発進できず、そこで出遅れたことがレース展開に大きく響きました。途中のピット作業でもミスがありました。決勝ペースに関しても新たな問題が浮上したので、次の富士大会までの時間で、問題解決に取り組みたいです。

Summary



総監督
館 信秀

2台とも土曜日の走り出しでは調子が良さそうでしたが、予選では今ひとつ一発の速さが出なかったです。決勝は上位を目指して何とか追いついて、坪井が5位入賞ということで最低限の結果は残せたかと思います。右京は良い兆しが見えているのですが、どこか空回りしているところがあるので、もうちょっと何とかしないといけないと思っています。いずれにしても、次回の富士大会で巻き返していこうと思います。次回も、精一杯頑張りますので、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

Race Scene



Vバンテリン

